

善光寺門前町（旧善光寺町）における地域と老舗の課題と未来
ーフィールドワークによる課題整理と観光まちづくりの可能性ー

【 要 旨 】

ソーシャル・イノベーション研究科
ソーシャル・イノベーション専攻
2024年3月修了
中尾 大介

【 要 旨 】

長野市の善光寺周辺地域は、善光寺の門前町かつ北国街道の宿場町として「まち」が形成され発展してきた。善光寺には年間 600 万人の参拝客が訪れる一方で、地域の老舗は年々減少傾向にある。この主たる要因として時代の変化を背景に、事業継続上の課題や後継者不在による事業承継問題が存在する。

本研究は、地域を俯瞰し、立場や時間軸を超えて、地域に関わっていく人材の存在や役割の重要性に焦点をあて、先行事例の分析から、観光まちづくりに必要なのは、何より「地域に根付く主体者たる人（人材）」であることを明らかにしている。

そのうえで、善光寺の門前町における老舗の実情についてフィールドワークによる調査を実施し、地域に内在する課題を洗い出すことから始める。その過程で、地域の老舗をはじめとする事業者と「まち」にとって、最適な方向性を先行事例の分析結果を踏まえて模索する。

本研究の課題整理をふまえ、地域と老舗の将来性についての洞察を深め、善光寺参詣を起点とし、この「まち」に人が滞在し、回遊するような観光まちづくりにつながるような方策を提案している。